

(第3種郵便物認可)

【杵築】杵築市内への観光誘客などを目的に、市と法政大（東京）が共同で実施している「地方共創プログラム」がまとまった。同大の学生が市内で実施した現地調査などを経て、観光を中心に杵築の魅力をもPRするプランを策定。市は「担当課レベルで検討し、実現に向けて議論していきたい」と話している。



# 立ち寄りスポットで 杵築の"どりごと"に

プログラムは昨年8月に始動。文献資料などから市に関する基本情報を学んだ後、同9月に市内全域を対象に3日間わたって現地調査を実施。今年1月に同大で最終発表会があった。

学生たちは4グループに分かれ、それぞれ市内中心部の城下町地域をはじめ、山香町や大田地域の観光資源や宿泊施設などを取材。宣伝費などのコストを計算し観光プランを練った。

山香、大田地域を中心にし

た観光プランを提案したグループ「杵築市をこよなく愛し隊」は、県の観光実態調査や市内の流動人口のデータを基に案を策定。別府などの観光地に比べ宿泊者数の割合が低い一方、観光客が立ち寄った割合が比較的高いことに注目した。

同グループは「短時間の滞在、通過型とすることで訪問のハードルが低下する」と述べた。

## 法政大生が誘客プラン発表

べ、旅程の合間に城下町や大分農業文化公園にあるパーク、山香町日指」といった観光スポットに立ち寄ってもらいリピーターをつくる戦略を発表した。

ほかに▽市が認知度向上に力を入れるハモを同大の学生食のメニューに取り入れる▽自転車でも城下町地域を巡るスタンプラリーといった案が出た。

水松悟市長は「素晴らしいアイデアの数々だ。事業者への取材を通して細かくプランを練ってくれた」と講評した。

(豊高明南実)

法政大創立者の金丸鉄伊藤修は旧杵築藩出身。これを縁に杵築市と同大は2018年2月、連携協力に関する協定書を交わし、さまざまな取り組みをしている。



②観光プランを発表する法政大の学生ら。杵築市をPRする観光プランを発表した学生ら。東京部の法政大（法政大提供）